

聖餐式 2020.9.20 聖霊降臨後第 16主日 [諸日課]

特 祷 特定 20

旧約聖書 ヨナ書 3:10-4:11

日課詩篇 第 145 篇 1-8

使 徒 書 フィリピの信徒への手紙 1:21-28a

福 音 書 マタイによる福音書 20:1-16

聖霊降臨後第 18主日特祷 特定 20

憐れみ深い全能の神よ、どうか主の豊かな恵みによって、すべての害あるものから守ってください。身体と魂とに備えをし、あなたのみ心の思いを喜んで成し遂げることができますように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

旧約聖書 ヨナ書 3:10-4:11

神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくださのをやめられた。ヨナにとって、このことは大いに不満であり、彼は怒った。彼は、主に訴えた。「ああ、主よ、わたしがまだ国にいましたとき、言ったとおりではありませんか。だから、わたしは先にタルシシュに向かって逃げたのです。わたしには、こうなることが分かっていました。あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いをくだそうとしても思い直される方です。主よどうか今、わたしの命を取ってください。生きているよりも死ぬ方がましです。」主は言われた。「お前は怒るが、それは正しいことか。」そこで、ヨナは都を出て東の方に座り込んだ。そして、そこに小屋を建て、日射しを避けてその中に座り、都に何が起こるかを見届けようとした。すると、主なる神は彼の苦痛を救うため、とうごまの木に命じて芽を出させられた。とうごまの木は伸びてヨナよりも丈が高くなり、頭の上に陰をつくったので、ヨナの不満は消え、このとうごまの木を大いに喜んだ。ところが翌日の明け方、神は虫に命じて木に登らせ、とうごまの木を食い荒らさせられたので木は枯れてしまった。日が昇ると、神は今度は焼けつくような東風に吹きつけるよう命じられた。太陽もヨナの頭上に照りつけたので、ヨナはぐったりとなり、死ぬことを願って言った。「生きているよりも、死ぬ方がましです。」神はヨナに言われた。「お前はとうごまの木のことと怒るが、それは正しいことか。」彼は言った。「もちろんです。怒りのあまり死にたいくらいです。」すると、主はこう言われた。「お前は、自分で労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木さえ惜しんでいる。それならば、どうしてわたしが、この大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか。そこには、十二万人以上の右も左もわきまえぬ人間と、無数の家畜がいるのだから。」

日課詩篇 第 145 篇 1-8

- 1 わたしの神、王よ、あなたをあがめ // わたしは世々にみ名をたたえる
- 2 日ごとにあなたをたたえ // 世々にみ名をほめ歌う
- 3 主は偉大、すべてを超えてたたえられる方 // その偉大さは計り知れない
- 4 今の世は次の世にあなたのみ業を語り告げ // あなたの偉大な力を告げ知らせる

- 5 人びとはあなたの栄光の輝きを告げ // わたしは不思議なみ業を思い巡らす
- 6 人びとはあなたの恐るべき力を語り // わたしはその偉大さを宣べ伝える
- 7 人びとはあなたの豊かな恵みを思い // 喜んであなたの正義を歌う
- 8 主は恵みと憐れみに満ち // 怒るに遅く、慈しみ深い

使徒書 フィリピの信徒への手紙 1:21-28a

わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです。けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です。こう確信していますから、あなたがたの信仰を深めて喜びをもたらすように、いつもあなたがた一同と共にいることになるでしょう。そうなれば、わたしが再びあなたがたのもとに姿を見せるとき、キリスト・イエスに結ばれているというあなたがたの誇りは、わたしゆえに増し加わることになります。ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行つてあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの霊によってしっかり立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。

福音書 マタイによる福音書 20:1-16

「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにすることは。』主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

代祷

- 心臓病児保育活動のため
- 「こども食堂」の活動支援のため
- 新型コロナウイルス感染症に苦しむ人々のために、また新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息されますように
- 東京聖三一教会のランチタイムコンサートのため
東京聖三一教会の教会委員会・信徒代議員のため
- 病床にある方々のため